



Title	スワヒリ語の「主語」を伴う不定詞句についての覚書
Author(s)	小森, 淳子
Citation	スワヒリ＆アフリカ研究. 2024, 35, p. 217-229
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95330
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

スワヒリ語の「主語」を伴う不定詞句についての覚書

A Memorandum of the Infinitive Phrase with its “Subject” in Swahili

小森 淳子*

KOMORI Junko

0. はじめに¹⁾

米田教授の研究業績は、巻頭の一覧をみても分かるように、マテング語、ヘレロ語、スワヒリ語、ガンダ語などのバントゥ諸語の文法記述研究にはじまり、バントゥ諸語の対照比較研究へと展開していき、またその中で、声調や情報構造、とりたて表現や動詞の自他構造の派生関係、名詞修飾構造や関係節など、個別の言語学的テーマを扱ったものも多岐にわたる。社会言語学的な視点からの研究がベースにあり、アフリカの言語に対する広い視野と深い洞察は、日本のアフリカ諸語研究を牽引してきただけでなく、多くの研究者を育て励まし、大いなる刺激をもたらし続けてくれた。筆者もそのような励ましと刺激を受けてきた一人である。特に、米田 (2011, 2012, 2014, 2021)、Yoneda (2018) に見られるような名詞修飾構造に関する論考に刺激を受け、スワヒリ語の不定詞による名詞修飾について考察したことがある (小森 2022)。その時も有益なアドバイスを惜しみなく与えてもらったが、筆者の力不足で課題を残したままの論考に終わった感がある。

本稿では、小森 (2022) で十分に扱えなかった不定詞句、特に不定詞の「主語」にあたる名詞を伴う不定詞句について、さらに考察していきたいと考える。不定詞による名詞修飾についての考察が入り口であったが、「主語」を伴う不定詞は、名詞修飾にかぎらない広範な構文の中に見出すことができる。ここでは、スワヒリ語のテキスト資料からの例を中心に、その形式と用法について検討する。

1. 不定詞による名詞修飾

スワヒリ語の不定詞は動詞に接頭辞 *ku-* をつけて表される。スワヒリ語の名詞はすべて「名詞クラス」に分類されるが、不定詞は 15 クラスの名詞クラスに属する。不定詞が名詞を修飾する場合、(1) に示すように、修飾される名詞 (「主名詞」) のクラスに呼応する「属辞」 (noun modifying particle) を挟んで、後ろに不定詞がくる構造になる。

* 大阪大学大学院人文学研究科 (Graduate School of Humanities, Osaka University)

¹⁾ 本稿は、米田信子教授ご退職記念号への寄稿である。米田教授のアフリカ諸語研究に敬意を表し、また、これまでのスワヒリ語専攻における教育、御指導に深く感謝いたします。

- (1)a. kitabu cha ku-soma²⁾ 「読む本」
 本 7 NM7 INF-読む
- b. basi la ku-enda Mwenge 「ムエンゲへ行くバス」
 バス 5 NM5 INF-行く ムエンゲ

米田 (2012, 2014) では、スワヒリ語の関係節について、主名詞と修飾節との間に文法関係がある「内の関係」と、文法関係がない「外の関係」という区別にもとづいて、2つの関係節の形式について分析し、その対応関係を明らかにしている。米田 (2011) では同じように、不定詞による修飾についても、主名詞と動詞との間に「内の関係」と「外の関係」を見出すことができるとしている。小森 (2022) ではその考察にもとづいて、さらに例を詳細に分析した。

「内の関係」にある主名詞は、不定詞の動詞に対して「主語」や「目的語」の関係にあったり、「道具」や「随伴」、「場所」、「経路」、「時」などの意味を表したりする。以下に小森 (2022) から抜粋して例をあげる。

(2) 主名詞が「主語」にあたる場合

- a. mvulana wa ku-chunga mifugo 「家畜を世話する少年」
 少年 1 NM1 INF-世話する 家畜
- b. kilimo cha ku-lazimish-w-a 「強制農業 (<強制される農業)>」 (HIS7:8)
 農業 7 NM7 INF-強制する-PSS-F

(3) 主名詞が「目的語」にあたる場合

- a. maji ya ku-nywa 「飲み水」
 水 6 NM6 INF-飲む
- b. samaki wa ku-kaanga 「揚げ魚」
 魚 1 NM1 INF-揚げる

²⁾ 本稿での表記は以下の通り。形態素の境界は必要な場合のみハイフンで区切る。動詞は、主語接辞、時制接辞、目的語接辞、不定詞接頭辞 (ku-) は区切るが、派生接辞と語尾 (-a) は必要な場合のみ区切る。属辞も子音と母音を区切らずに表記する。グロスの右側の数字は名詞クラスの番号を表し、呼応関係を示す。グロスの略号: APL 適用形接辞、COMP 補文標識、CONC 随伴、CONS 継起、COP コピュラ、F 動詞語尾、INF 不定詞接頭辞、LOC 場所接尾辞、NEG 否定、NM 属辞、OM 目的語接辞、PRS 現在、PSS 受動形接辞、PST 過去、R 関係接辞、REL 関係詞、SM 主語接辞、2s 2人称単数、3s 3人称単数。なお例文は、出典資料から収集したものである。ネィティヴ・チェックは Zainabu Kassu Isack 氏 (大阪大学大学院言語文化研究科特任准教授) による。

(4) 主名詞が「道具」を表す場合³⁾

- a. kisu cha ku-kat-i-a/ *ku-kat-a nyama 「肉を切るナイフ」
ナイフ 7 NM7 INF-切る-APL-F/ INF-切る-F 肉
- b. kalamu ya ku-andik-i-a/ *ku-andik-a barua 「手紙を書くペン」
ペン 9 NM9 INF-書く-APL-F/ INF-書く-F 手紙
- c. sindano ya ku-shona nguo 「服を縫う針」 (KAM:296)
針 9 NM9 INF-縫う 服
- d. maji ya ku-nawa vidole 「指を洗う水」
水 6 NM6 INF-洗う 指

(5) 主名詞が「随伴」を表す場合

- mtumbwi wa ku-enda na-o ku-vu-li-a samaki
小舟 3 NM3 INF-行く CONC-R3 INF-獲る-APL-F 魚
「魚を獲りに行く小舟」 (MYO p.13)

(6) 主名詞が「場所」や「経路」を表す場合

- a. mahali pa ku-kaa 「住む場所」
場所 16 NM16 INF-住む
- b. njia ya ku-elekea kilele-ni 「頂上へ向かう道」
道 9 NM9 INF-向かう 頂上-LOC

(7) 主名詞が「時」を表す場合

- a. saa ya ku-ondoka 「出発する時間」
時間 9 NM9 INF-出発する
- b. siku ya ku-zaliwa 「誕生日 (<生まれた日>)」
日 9 NM9 INF-生まれる

小森 (2022) では、上記のように主名詞が「場所」や「時」を表す場合も「内の関係」に分類したが、特に「時」は動詞と文法関係になく、修飾部がその「時」の内容を説明しているので、「外の関係」に分類すべきだと考えられる。

「外の関係」は主名詞と動詞との間に文法関係がない場合であるが、さらに、動詞が主名詞の内容を表す場合（「内容補充」）と、主名詞が「前、あと、左、右、原因、結果、前

³⁾ 主名詞が「道具」を表す場合、(4a,b) のように、不定詞の動詞が適用形でなければならない場合と (4c,d) のように原形の場合とがある。適用形動詞の場合、「道具」を表す名詞は、動詞に対して「目的語」の関係にもあると考えられる。詳細については小森 (2022) を参照されたい。

日、翌日」などのような相対的な関係を表す名詞である場合（「相対補充」）に分けられる（寺村 1992）。以下に、内容補充と相対補充に分けて例をあげる。

(8) 内容補充の例

- a. *tabia ya ku-la kitoweo kwa wingi* 「おかずをたくさん食べる習慣」
 習慣 9 NM9 INF-食べる おかず by 多数 (MYO:14)
- b. *mpango wa ku-ongeza mshahara* 「給料を上げる計画」
 計画 3 NM3 INF-増やす 給料
- c. *tangazo la ku-ondoa majeshi yake* 「彼の軍隊を発出するという告知」
 告知 5 NM5 INF-発出する 軍隊 6 彼の 6 (HIS7:3)
- d. *wazo la ku-nyonya rasilimali za Afrika*
 考え 5 NM5 INF-搾取する 財産 10 NM10 アフリカ
 「アフリカの財産を搾取する（という）考え」 (HIS7:8)

(9) 相対補充の例

- a. *kabla ya ku-panda basi* 「バスに乗る前」
 前 9 NM9 INF-乗る バス
- b. *baada ya ku-salimiana* 「挨拶し合ったあと」
 あと 9 NM9 INF-挨拶し合う
- c. *sababu ya ku-soma Kiswahili* 「スワヒリ語を学ぶ理由」
 理由 9 NM9 INF-学ぶ スワヒリ語

スワヒリ語のテキスト資料にあたると、不定詞による名詞修飾の例は、さまざまな例が数多くみつかると、主名詞と不定詞の意味関係を考えると、おおまかに以上のように分類することができる。その中で、不定詞の前に不定詞の動詞の「主語」にあたる名詞があらわれる例があることに気が付いた。以下のような例である（小森 2022:58）⁴⁾。

- (10)a. *kabla ya uvamizi ku-fanyika* 「侵略がなされる前」
 前 9 NM9 侵略 INF-なされる (HIS7:3)
- b. *baada ya maji ku-chemka* 「お湯が沸いたあと」
 あと 9 NM9 水 INF-沸騰する
- c. *sababu ya mwalimu ku-ku-adhibu* 「先生があなたを罰した理由」
 理由 9 NM9 先生 INF-OM2s-罰する (KAM:282)

⁴⁾ 以下、例文内の太字部分は、不定詞とその「主語」にあたる名詞を指す。

これらの例では、属辞の後ろにくる名詞は、その後ろの不定詞の「主語」にあたる意味を表す。主名詞は、「前、あと、理由」など「相対補充」の関係にあるものが多いが、次の例のように、「内容補充」の関係にあると考えられる主名詞がくることもある。

(11)a. zogo la watu ku-to-ku-sikilizana⁵⁾ (中島 1978:45)
 ざわめき 5 NM5 人々 INF-NEG-INF-話し合う
 「人々が話し合えないほどのざわめき」

b. mbinu za Wazungu ku-penya bara-ni (HIS7:86)
 計略 10 NM10 白人 INF-侵略する 大陸-LOC
 「白人が大陸に侵略する計略」

c. jitihada za Waingereza ku-tawala nchi yake (HIS7:91)
 努力 10 NM10 イギリス人 INF-支配する 国 9 彼の 9
 「イギリス人が彼 (cf: ガンダ王) の国を支配しようとする努力」

(11) の例では、主名詞の「ざわめき」、「計略」、「努力」を、属辞以下が説明する関係にあり、「内容補充」の例と考えられる。一方、「主語」を伴う不定詞句が修飾する主名詞は「外の関係」にある場合のみであり、「内の関係」にある主名詞は修飾できない。下の (12) の主名詞の *fedha* 「お金」は、不定詞の動詞 *tumia* 「使う」の「目的語」になり、「内関係」にあたる (小森 2022 : 59)。

(12)a. *fedha* za ku-tumia 「使う／使える お金」
 お金 10 NM10 INF-使う

b. **fedha* za Neema ku-tumia (ネエマが 使う／使える お金)
 お金 10 NM10 ネエマ INF-使う

小森 (2022) では、主名詞と不定詞が「外関係」にある場合に、不定詞の「主語」にあたる名詞があらわれると考えたが、さらに調べてみると、それは名詞を修飾する場合に限らないことが分かった。以下に、「主語」を伴う不定詞の例をさらに詳しくみていく。

⁵⁾ 不定詞の否定形は、不定詞接頭辞 *ku-*の後ろに、否定接辞 *to-*を挿入して作られる。*to-*の後ろにさらに不定詞接頭辞の *ku-*が入る場合もある。

2. 「主語」を伴う不定詞の例

不定詞の動詞の「主語」にあたる名詞が不定詞と共に起する場合、不定詞の前に「主語」があらわれる場合と、不定詞の後ろに、属辞 *kwa* を挟んであらわれる場合とがある。ここでは、不定詞の前に「主語」があらわれる例を、「主語」を伴う不定詞と呼んで、さらに例をみていく。スワヒリ語のテキスト資料をみると、*baada ya* 「～のあとに」、*kabla ya* 「～の前に」、*sababu ya* 「～の理由」(あるいは *kwa sababu ya* 「～の理由で」)、*kwa ajili ya* 「～のために」などの句の後ろに、「主語」を伴う不定詞が続く例がよくみられる。(10)の他に、さらに以下のような例がある。

- (13)a. *kabla ya SPUP ku-tambu-liw-a na OAU*
前9 NM9 SPUP 党 INF-認める-PSS-F by OAU
「SPUP 党が OAU (アフリカ統一機構) に認められる前に」(HIS8:160)
- b. *baada ya serikali ku-anza ku-wa-tia kizuizi-ni watuhumiwa*
あと9 NM9 政府 INF-始める INF-OM2-入れる 拘置所-LOC 容疑者2
「政府が容疑者たちを拘置所に入れ始めたあとで」(HIS8:148)
- c. *kwa sababu ya matarajio yake ku-haribika*
～で 理由9 NM9 期待6 彼の6 INF-壊れる
「彼の期待が破れたので」(MYO:22)
- d. *kwa ajili ya Bugonoka ku-zaa watoto*
～で 理由・目的9 NM9 ブゴノカ INF-生む 子供
「ブゴノカが子供を生むために」(MYO:15)

(13) の例は、名詞修飾の例というよりは、意味的には前置詞的な語句の後ろに、「主語」を伴う不定詞が続いている例だと言える。実際、以下のように、*kwa* 「～で」や *bila* 「～なしで」など、前置詞に相当する語の後ろに、「主語」を伴う不定詞が続く例がある。

- (14)a. *(kesi) i-li-ishia kwa watu sita ku-hukum-iw-a kifo*
裁判9 SM9-PST-終わる ～で 人 6人 INF-判決を下す-PSS-F 死
「(裁判は) 6人が死刑の判決を下されて終わった」(HIS8:136)
- b. *kikao ki-ka-malizika bila muswada huo ku-fanikiwa*
会合7 SM7-CONS-終わる ～なしで 法案3 その3 INF-成功する
「会合はその法案が通ることなく終わった」(HIS8:134)

このようにしてみると、「主語」を伴う不定詞は、名詞修飾の範囲をこえてさまざまな構文の中に見出されることが分かる。さらに以下の例は、tokana na「～に起因する」、sababisha「要因となる」、sababishwa na「～に理由づけられる」などの動詞句のうしろに「主語」を伴う不定詞が続いている例である。

- (15) mafanikio ya chama cha MDRM ya-li-tokana na mipango yake
成功 6 NM6 党 7 NM7 MDRM SM6-PST-起因する by 計画 4 その 4

ku-wek-w-a kwa namna amba-yo . . . (HIS8:134)

INF-設定する-PSS-F ～で 方法 9 REL-R9

「MDRM 党の成功はその計画が . . . のような方法で設定されたことに起因した」

- (16) (matatizo mengi) ya-na-sabaish-w-a na Waafrika ku-to-shirikishwa
問題 6 多くの 6 SM6-PRS-理由づける-PSS-F by アフリカ人 INF-NEG-組み込まれる

katika shughuli za kiserikali (HIS8:147)

中に 活動 10 NM10 政府の

「(多くの問題は) アフリカ人が政府の活動に組み込まれていないことに起因する」

- (17) kuonewa kwa wasomi wa Kiganda ku-ka-sababisha utaifa wa
抑圧 15 NM15 知識人 2 NM2 ガンダの SM15-CONS-要因となる ナショナリズム 11 NM11

Kiganda ku-unganishwa na . . . (HIS8:143)

ガンダの INF-結びつけられる by

「ガンダ人知識人の抑圧はガンダ・ナショナリズムが . . . に結び付けられる要因となった」

また、英語のいわゆる “it ~ for ~ to” の構文にあたる文が、「主語」を伴う不定詞で表されている例がある。次の例は、英語の当該構文からスワヒリ語に訳された文であるが、“for ~ to” にあたる部分に、「主語」を伴う不定詞がみられる。

- (18) (kwa ku-fuata utaribu wa kura,) i-li-wezekana sasa Waafrika ku-shinda
by INF-従う 手順 の 選挙 SM9-PST-可能である 今 アフリカ人 INF-勝つ

kwa wingi (HIS8:145)

by 多数

「(選挙の手順に従って) 今やアフリカ人が多数票を獲得することは可能であった」

“it was (electorally) possible for Africans to win a majority.” (Mazrui(ed.)1993:234)

(18) の *i-li-wezekana* 「可能であった」の *i-* は英語の非人称の *it* にあたり、後続の *Waafrika ku-shinda kwa wingi* 「アフリカ人が多数票を獲得すること」を指している。このような例をみると、「主語」を伴う不定詞は主語と動詞からなる従属節のような意味を表しているのではないかと考えられる。次の例は、まさに従属的な節をなしている例である。

- (19) *duka moja li-li-vunj-w-a na wezi na mali nyingi ku-ibi-w-a*
 店 5 ある 5 SM5-PST-壊す-PSS-F by 泥棒 そして 財 多くの INF-盗む-PSS-F
 「ある店が泥棒に入られ、そして、多くの財が盗まれた」(中島 2000:170)

主節の文として *duka moja lilivunjwa na wezi* 「ある店が泥棒に入られ」があり、それに続く従属的な節として *mali nyingi kuibiwa* 「多くの財が盗まれた」がある。この「主語」を伴う不定詞は従属的な位置でのみ可能であり、*mali nyingi kuibiwa* が主節をなすことはできない⁶⁾。

以上のようにみてくると、「主語」を伴う不定詞は従属的な節に相当する形式だと考えられる。この形式は、(10, 11, 13) のように「外の関係」にある主名詞に続いたり、(14-16) のように前置詞的な語の後ろにあらわれたり、(17, 18) のように動詞の補部を形成したりする。さらに、(19) のように、主節に続く並列的な従属節を形成しうると言えよう。

このような機能は不定詞の機能の広さと関係していると考えられる。スワヒリ語の不定詞の機能には、名詞的なもの、名詞修飾構造にみたような形容詞的なもの、また、以下に見るように副詞的なものや分詞的なものがある(中島 2000:168-170)。

- (20)a. *a-li-kwenda msitu-ni ku-kata kuni* <副詞的> (中島 2000:169)
 SM3s-PST-行く 森-LOC INF-切る 薪
 「彼は薪を取りに森に行った」
- b. *Hasan, ku-sikia hayo, moyo u-li-m-dunda* <分詞的> (中島 2000:169)
 ハッサン INF-聞く それ 心 3 SM3-PST-OM3s-打つ
 「ハッサンは、それを聞くと、心が高鳴った」

不定詞には、副詞や分詞的な、主節を修飾する機能から、さらに従属的な節としての機

⁶⁾ 主節をなすためには、*mali nyingi zi-li-ibi-w-a* 「多くの財が盗まれた」
 財 10 多くの 10 SM10-PST-盗む-PSS-F

というように、動詞が主語接辞と時制接辞をとる必要がある。中島(2000:170)では、*zi-li-*の部分不定詞の *ku-*が担い、「主語接辞—時制接辞の繰り返しを避けている」と説明されている。

能があると考えられるが、従属的な節としての機能ゆえに、「主語」にあたる名詞が不定詞の前にくる構造を可能にしていると考えられる。逆に言えば、「主語」を伴う不定詞は、従属的な節として機能しているといえる。その一方で、「主語」を伴う不定詞は、名詞としての機能は果たされないように思われる。このことについて、さらに考察するために、以下に、不定詞の「主語」にあたる名詞が、属辞 *kwa* を挟んで不定詞の後ろにあらわれる場合についてみていく。

3. 属辞 *kwa* を伴う不定詞の例

不定詞の「主語」にあたる名詞は、不定詞の後ろにあらわれることもある。その場合、不定詞と「主語」のあいだに属辞 *kwa*⁷⁾ がはいる。属辞は、基本的には、*kitabu cha Juma* 「ジュマの本」というように、前後の名詞をつなぐはたらきをするが、属辞の前が不定詞の場合、うしろは不定詞の「主語」にあたる名詞がくる。この形式をここでは、属辞 *kwa* を伴う不定詞と呼ぶことにする。以下に例をあげる（以下、不定詞と *kwa* を太字で示す）。

- (21)a. **ku-ene** **kwa** Omicron 「オミクロンが広がること」
 INF-広がる NM15 オミクロン
- b. **ku-ongezeka** **kwa** bei za mzalishaji 「生産者価格が増加すること」
 INF-増加する NM15 値段 10 NM10 生産者 (HIS8:146)
- c. **ku-inukia** **kwa** Wabukini 「マダガスカル人が立ち上がること」
 INF-立ち上がる NM15 マダガスカル人 (HIS8:135)
- d. **ku-anzish-w-a** **kwa** chama cha UNC 「UNC 党が創設されること」
 INF-創設する-PSS-F NM15 党 7 NM7 UNC (HIS8:141)
- e. **ku-to-zuilika** **kwa** hamu ya ku-pata uhuru
 INF-NEG-抑えられる NM15 欲求 9 NM9 INF-得る 独立
 「独立を得るという欲求が抑えられないこと」 (HIS8:136)

上の例に見られるように、属辞 *kwa* の後ろの名詞は、不定詞の「主語」にあたる意味を表している。この属辞 *kwa* を伴う形式と、前節でみた「主語」を伴う不定詞の形式は、ある構文では交替可能である。

⁷⁾ 属辞 *kwa* は 15 クラスの名詞に呼応した形である。基本的には、15 クラスの不定詞を後ろから修飾する機能があるが、語彙化して、これまでの例にも見られたように、「～で」のような前置詞として用いられることもある。不定詞を修飾する属辞として用いられる場合は、グロスに NM15 と表記する。

(22)a. baada ya **ku-batilish-w-a** **kwa** biashara katili ya watumwa
 あと 9 NM9 INF-廃止する-PSS-F NM15 貿易 9 残酷な NM9 奴隷
 「残酷な奴隷貿易が廃止されたあと」 (HIS7:4)

b. baada ya **biashara katili ya watumwa ku-batilish-w-a**
 あと 9 NM9 貿易 9 残酷な NM9 奴隷 INF-廃止する-PSS-F
 「残酷な奴隷貿易が廃止されたあと」

実際のテキストに見られた表現は (22.a) であるが、(22.b) のように「主語」を伴う不定詞の形式も可能であった (小森 2022: 60)。他にも、以下のテキストからの例にみられるように、動詞 *pelekea* 「もたらす」や *sababisha* 「要因となる」の補部としても、不定詞の2つの形式がみられる。以下の例はそれぞれ、a. が属辞 *kwa* を伴う不定詞の例、b. が「主語」を伴う不定詞の例である。

(23)a. (mazingira ya ndani) ya-ka-pelekea **ku-ongezeka kwa** msukumo wa nguvu
 環境 6 NM6 国内 SM6-CONS-もたらす INF-増大する NM15 押し 3 NM3 力
 「(国内環境が) 力強い後押しの増大をもたらした」 (HIS8:134)

b. sababu zi-li-zo-pelekea **Tanganyika ku-pata** uhuru haraka ni . . .
 理由 10 SM10-PST-REL10-もたらす タンガニカ INF-得る 独立 早く COP
 「タンガニーカが早く独立を得ることをもたらした理由は . . . である」 (HIS8:145)

(24)a. (ku-pinga . . .) ku-li-sababisha **ku-anzish-w-a kwa** kanisa huru
 INF-抵抗する SM15-PST-要因となる INF-創設する-PSS-F NM15 教会 独立
 「(. . . に対する抵抗が) 独立教会の創設の要因となった」 (HIS7:93)

b. . . ndi-ko ku-li-ko-sababisha **Mau Mau ku-anza** mashambulio
 COP-REL15 NM15-PST-REL15-要因となる マウマウ INF-始める 攻撃
 「 . . . こそがまさに、マウマウが攻撃を始める要因となったことである」 (HIS8:148)

baada ya 「のあとに」、kabla ya 「の前に」などの後ろや、*pelekea* 「もたらす」、*sababisha* 「要因となる」などの動詞の補部としては、どちらの形式もみられる。これらの構文では、当該箇所、名詞でも従属的な節でも可能であるので、2つの形式があらわれ得ると考えられる。しかし、名詞しかあらわれ得ないところでは、属辞 *kwa* を伴う形式しかあらわれない。次の例は、不定詞句が主節の主語になっている例である。

(25)a. **ku-rudish-w-a kwa** Kabaka ku-li-fanya mshikamano kati.ya makundi mbalimbali
 INF-戻す-PSS-F NM15 ガンダ王 SM15-PST-なす 団結 among 団体 さまざまな
 「ガンダ王が戻されたことは、さまざまな団体の間の団結をもたらした」(HIS8:142)

b. **ku-kosekana kwa** serikali kuu ha-ku-maanish-i kwamba ・ ・
 INF-欠ける NM15 政府 大きな NEG-SM15-意味する-NEG.F COMP
 「大きな政府がないということは、・ ・ということを意味しない」(HIS7:85)

c. **ku-inukia kwa utaifa.na.uzalendo** katika Uganda ku-na-dhihirisha migawanyiko ・ ・
 INF-起こる NM15 ナショナリズム in ウガンダ SM15-PRS-明らかにする 分裂
 「ウガンダにおけるナショナリズムの勃興は・ ・の分裂を明らかにする」(HIS8:143)

(25) の例はそれぞれ不定詞句が主語になっている文であるが、その主語は属辞 *kwa* を伴う不定詞の形になっている。不定詞句全体で主語になっており、名詞として機能しているといえる。この位置に「主語」を伴う不定詞の形式がくることはできない。(26) の例は(25) の主語の位置を、「主語」を伴う不定詞の形にしたものであるが、どれも不可である。

(26)a. ***Kabaka ku-rudish-w-a** ku-li-fanya mshikamano kati.ya makundi mbalimbali
 ガンダ王 INF-戻す-PSS-F SM15-PST-なす 団結 among 団体 さまざまな

b. ***serikali kuu ku-kosekana** ha-ku-maanish-i kwamba ・ ・
 政府 大きな INF-欠ける NEG-SM15-意味する-NEG.F COMP

c. ***utaifa.na.uzalendo katika Uganda ku-inukia** ku-na-dhihirisha migawanyiko ・ ・
 ナショナリズム in ウガンダ INF-起こる SM15-PRS-明らかにする 分裂

「主語」を伴う不定詞は名詞として機能することはできないといえる。以上のように、2つの不定詞の形式は、(22-24) のような位置では、どちらも可能であるが、名詞しか可能でない位置には、属辞 *kwa* を用いる形式しかくることができない。つまり、属辞 *kwa* を伴う不定詞は、名詞として機能することができ、「主語」を伴う不定詞は、名詞としては機能しない不定詞句であるといえる。

4. おわりに

小森 (2022) では、不定詞による名詞修飾の例を取り上げる中で、不定詞に、その動詞の「主語」にあたる名詞が伴う場合があることに気が付いた。その形式には、不定詞の前に「主語」がくる場合と、不定詞の後ろに属辞 *kwa* を挟んで「主語」がくる場合があり、

この2つの形式は、ある構文では交替可能であることを指摘するに終わった。

今回、さらにテキスト資料から、「主語」を伴う不定詞の例について収集してみると、この形式は名詞修飾に限らず、広い範囲に見られることが分かった。「主語」を伴う不定詞は、前置詞的な句のあとや動詞の補部、さらに、並列文の後続の文の代わりにあらわれることができ、従属的な節のようなはたらきをするのではないかと考えられる。

属辞 *kwa* を伴う不定詞も、前置詞的な句のあとや動詞の補部にあらわれることができ、2つの形式が交替可能であるようにみえたが、「主語」を伴う不定詞は、主節の主語のような位置にはあらわれることができず、属辞 *kwa* を伴う不定詞のみが可能であった。つまり、この2つの形式は、同じような意味をあらわし、交替可能であるようにみえたが、属辞 *kwa* を伴う不定詞のみ、名詞としても機能することが可能であり、「主語」を伴う不定詞には、名詞としての機能はないと考えられる。「主語」を伴う不定詞は、従属的な節の機能を担っていると考えられ、前置詞やそれに相当する語句や動詞の補部の位置、また、並列文の後続の節の位置などにあらわれることが可能である。

不定詞は、「名詞クラス」に属するように、名詞として機能する一方、名詞を修飾したり、副詞や分詞的なはたらきをするなど、多様な機能を有している。今回、「主語」を伴う不定詞について用例を集めて考察するなかで、これは、名詞としての機能をもたない不定詞であり、従属的な節のはたらきをする不定詞ではないかと考えたが、この不定詞句がどのような「節」であり得るのか、という基本的な「節」についての考察には至っておらず、その構造や他の用例との関係については今後の検討課題としたい。

属辞 *kwa* を伴う不定詞は、不定詞の基本的な機能である名詞としての機能を有しており、さらに、「主語」を伴う不定詞と同様、前置詞や動詞の補部の位置にあらわれることが可能である。「主語」を伴う不定詞と交替可能である構文において、どちらの形式が用いられるかなどについては明らかにできなかった。属辞 *kwa* を伴う不定詞は、どのような動詞句からでも作ることが可能というわけではなく、目的語を伴う他動詞の不定詞の場合は不可であるなど⁸⁾、動詞の種類や不定詞句の長さなどが関係してくると考えられるが、この点についてはここでは詳細な分析ができなかった。これらも含めて、スワヒリ語の不定詞の用法についてのさらなる分析は、今後の課題としたい。

⁸⁾ 例えば、* *ku-mw-ita* *mke wake* *kwa* *Juma* (ジュマが彼の妻を呼ぶこと)
INF-OMI-呼ぶ 妻 1 彼の 1 NM15 ジュマ

参考文献

- 小森淳子. 2022. 「スワヒリ語の不定詞による名詞修飾について」、『スワヒリ & アフリカ研究』 33 号、pp.41-62. 大阪大学大学院言語文化研究科スワヒリ語専攻.
- 寺村秀夫. 1992. 「連体修飾のシンタクスと意味 — その 1～4」 (著作年 : 1975-1978)、『寺村秀夫論文集 I — 日本語文法編』、pp.157-320、くろしお出版
- 中島久. 1978. 「スワヒリ語の修飾表現—連体修飾」、『アジア・アフリカ文法研究 7』、pp.23-50、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 中島久. 2000. 『スワヒリ語文法』、大学書林
- 米田信子. 2011. 「スワヒリ語の不定詞による名詞修飾」、対照研究セミナー (於 : 松江)、発表ハンドアウト.
- 米田信子. 2012. 「スワヒリ語における 2 種類の関係節」、『CLAVEL』 2 号、pp.13-25、対照研究セミナー.
- 米田信子. 2014. 「バントゥ諸語における名詞修飾節の形式と意味」、益岡隆志他 (編) 『日本語複文構文の研究』 ひつじ書房、pp.617-643.
- 米田信子. 2021. 「スワヒリ語における「関係節」と体言化」 鄭聖汝・柴谷方良 (編) 『体言化理論と言語分析』、大阪大学出版会、pp.429-458.
- Yoneda, Nobuko. 2018. 'Noun-modifying constructions in Swahili and Japanese.' In: Pardeshi, Prashant and Taro Kageyama (eds.) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics* (Handbooks of Japanese language and linguistics 6) Berlin: de Gruyter Mouton. pp.433-452.

出典資料

- Mazrui, A.A. (ed.) 1993. *General History of Africa, vol.8. (Africa since 1935)*, Paris : Unesco.
- HIS7: Boahen, A. 2000. *Historia Kuu ya Afrika vol.7: Afrika Chini ya Utawala wa Wakoloni 1880-1935*, Dar es Salaam: Taasisi ya Uchunguzi wa Kiswahili.
- HIS8: Mazrui, A.A. (ed.). 1999. *Historia Kuu ya Afrika vol.8: Afrika kuanzia 1935*, Dar es Salaam: Taasisi ya Uchunguzi wa Kiswahili.
- KAM: Taasisi ya Uchunguzi wa Kiswahili. 2001. *Kamsi ya Kiswahili-Kiingereza*, Dar es Salaam: Taasisi ya Uchunguzi wa Kiswahili.
- MYO: Kitereza, A. 1980. *Bw.Myombekere na Bi.Bugonoka na Ntulanalwo na Bulihwali*, vol.1, Dar es Salaam: Tanzania Publishing House.